



障害者が働く「わーくはびねす農園 市原ファーム」＝市原市、エスプールの提供

農業で障害者に働く場

企業は障害者の法定雇用率アップを図り、障害者は安定した職を得られる――。企業向けのそんな貸農園が9日、松戸市にオープンする。国や自治体で法定雇用率の水増しが問題になるなか、農業を活用した障害者の雇用創出が、県内でも広がりがつつある。

新設されるのは、松戸市高塚新田の「わーくはびねす農園 松戸ファーム」。障害者就労支援会社「エスプールのラス」（東京都千代田区）が約8千平方メートルの敷地に養液栽培用のハウス農園を造った。

市社会福祉協議会などを通じて市や周辺在住の働き手を募集し、毎日の通勤が可能かなど一定の条件をクリアした人材を、農園を貸し出す企業に紹介。採用された障害者は

企業向け貸農園 松戸に9日オープン

各企業の社員として農園で働き、月額10万～11万円の収入が得られる仕組みだ。

同社は人材の紹介から農業指導、農園の管理までをパッケージで行い、企業側は上司役としてOBなどを配置する。全体では60人の雇用を見込んでいて、1日6時間の労働でレタスや水菜などの葉物野菜を栽培。将来はスイカやメロンなども手がける。

収穫した野菜は、各企業の社員に配るなど福利厚生に役立てる。借りる企業は5社の予定で、すでに製鉄会社、商社の2社と契約済み。3社と交渉が進んでいる。

同社事業本部の星田真紀リーダーによると、障害者は企業の社員として身分が安定し、障害者年金を含めれば月額17万～18万円の収入が得られるという。同社の農園開設は松戸市で11カ所目。県内では昨年12月の千葉市に次いで10カ所目になる。

身分・収入が安定 ■ 法定雇用率アップ

（青柳正悟）